

第4B(中)分科会 組織・運営に関する課題

提案主題 学校経営ビジョン達成に向けた組織力を高めていくための教頭の役割
サブテーマ ~個々の学校経営への参画意識の向上化をどのように図るか~
協議の柱 学校経営ビジョン達成に向けて、個々の協働・参画意識を高めるために、教頭としての役割はどのようにあればよいのか。

提言者 竹田市立都野中学校 高野真暢

1 質 疑

- (1) Q アイデア・ボックスに寄せられた意見の中で学校運営に効果的なものはあったか。
A 会議のプリントを早めに配布しておくことや諸会議での提案の分け方、反省を紙媒体ではなく電子データとしていつでも打ち込めるようにする等のアイディアが寄せられた。

2 協 議

- (1) 運営委員会等も、メンバーを変えながらも徹底していく必要がある。その際、会議の内容を事前に知らせておくことや、進行状況・その結果等を教頭が発信して周知していくことも大切である。
- (2) 運営委員会や職員会議等、各種会議の1年間の流れを作って、引き継いでいく、周知徹底していくことに課題があり、工夫が必要である。
- (3) プロジェクトチーム会議等の持ち方について、定例化していくことや発信力の向上等に課題が多い。小規模校では学年部ごとのプロジェクトチームや、小中連携会議等と内容やメンバーを揃えて取り組む工夫も可能である。
- (4) 起案票(決済伺い)等、機動力のある取組や若手職員にも提案の機会を与える取組も有効である。
- (5) 学校運営全体に見える化した「進行管理表」についてはすぐにでも取り入れたいという意見が多く寄せられた。
- (6) その他、グループの協議の中では、目標管理シートの面談や学校評価の検証・改善、各種主任への声掛け等、様々な実践の交流が行われた。

3 指導助言

- (1) 学校の教育課題等の状況の理解と取組に対する納得が学校経営への参画意欲に繋がる。その意味でもSWOT分析は有効で、学校規模によっては学年部や運営委員会の中で取り入れる方法もある。
- (2) 「進行管理表」は見通しを持たせながらミドルリーダーを育てていく上でも、教頭の力量を高めていく上でも有効である。教頭が助言しながら教務に作成を振ることや、学期ごとに作成する等の工夫も可能である。
- (3) 職員室の中での人間関係づくりは重要で、朝の声掛け等、常日頃からコミュニケーションの機会を大切にしていく必要がある。
- (4) アイデア・ボックスは、魅力的である。ただ、その結果(できる・できない等)を返していくことが次の意欲化に繋がる。
- (5) 校内研の中で学校組織マネジメントや県の施策等に関する研修を教頭がリードしていることはすごい取組である。県や市の施策の理解を深めて学校の独自性を出していけば、職員の目的意識も高まっていく。この研修を2学期以降の学校運営に活かして欲しい。